

**細胞培養新型インフルエンザワクチンの共同開発に関する契約締結について**

財団法人 化学及血清療法研究所

財団法人 化学及血清療法研究所（熊本県熊本市、理事長：船津昭信、以下：化血研）は、グラクソ・スミスクライン株式会社（本社：東京都渋谷区、代表：マーク・デュノワイエ 以下：GSK ジャパン）及びグラクソ・スミスクライン・バイオリジカルズ（ベルギー 以下：GSK バイオ）と、日本国内において新型インフルエンザを含む細胞培養技術によるインフルエンザワクチンを共同開発するための契約を8月31日付けで締結しましたのでお知らせ致します。

本提携では、化血研と GSK バイオ双方が所有、またはライセンス供与を受けている（化血研が GSK バイオからサブライセンス供与されている E B66 細胞系の技術を含む）細胞培養の技術・ノウハウと、GSK バイオのアジュバント（免疫増強剤）技術を統合し、細胞培養による新型インフルエンザワクチンを共同開発し、早期に国内生産及び供給することを目的としております。

細胞培養技術は、新型インフルエンザウイルス同定後のワクチン生産期間短縮を可能にし、ワクチンの供給を迅速化すると期待されています。化血研はこれまで培った細胞培養によるワクチン製造についての技術・ノウハウを活かし、本提携によるワクチン開発を実現することにより、日本の新型インフルエンザ対策に貢献していく所存です。

化血研は国主導の新型インフルエンザ対策の一環として、2004年より H5N1 型（プレ）パンデミックインフルエンザワクチンについて臨床試験を実施し、有効性・安全性を確認した後に 2008年4月22日に製造販売承認申請を行っております。またこれまでに H5N1 型（プレ）パンデミックワクチン原液を製造し、国家備蓄に貢献しています。更に、現在流行が拡大している H1N1 型新型インフルエンザに対するワクチンも生産中です。

一方、GSK バイオは海外においてインフルエンザワクチンの生産、供給並びにアジュバント開発について豊富な経験と実績を持ち、H5N1 型（プレ）パンデミックワクチンでも、2008年5月に EU 加盟国の 27 カ国での販売について欧州当局より承認を取得しております。また、GSK ジャパンはアジュバントを添加した H5N1 型（プレ）パンデミックワクチンを日本国内で開発中です。

【財団法人 かがくおよびけっせいりょうほうけんきゅうじょ 化学及血清療法研究所（化血研）かけつけん : <http://www.kaketsuken.or.jp/>】

化血研は、人体用ワクチン・血漿分画製剤・動物用ワクチンの研究・開発・製造・供給を手掛ける生物学的製剤メーカーとして、これまで保健衛生の向上に寄与して参りました。本提携の契約締結を機に、新型インフルエンザ対策という国家規模の危機管理施策に対して更に貢献できるよう努めて参ります。

以上

**【本件に関するお問い合わせ先】**

財団法人 化学及血清療法研究所 企画部企画課  
はまじ  
担当：濱治 和博（TEL:096-344-1385、FAX：096-344-2307）